

# ごあいさつ

平成7年新春を迎えて



理事長

寺田 斐夫

平成7年の新春を迎え、謹んでお祝いを申し上げますとともに、皆様の御健勝を心よりお慶び申し上げます。平素より、当センターの運営につきましては、ご指導ご支援をいただき、心から御礼申し上げます。

昭和62年9月1日、安全で、豊かな潤いのある水辺空間の保全・整備を目的として、当センターが発足してはや7年が経過しました。この間において、建設省をはじめとして、全国各地から、また本当に多方面の方々から、ご期待とご指導ご支援を戴き、おかげさまで、順調な歩みを続けることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最近とみに物質的な豊かさだけでなく、ほんとうに豊かさを実感できる生活の実現が様々な分野で強く要求されています。川づくりについても全く同様で、治水利水環境のいずれの面においても、より質の高いものが求められており、なかでも自然豊かなゆとりと潤いのある水辺空間の保全創出ということが強く期待されています。このような社会的な要請の中、当センターと致しましても、設立以来、地域と一体となった親しみのある美しい水辺空間の創出や、河川の自然環境の保全・創出等の課題について技術開発・調査研究を強力に行なうとともに、データバンクの充実、各種の広報活動、国際協力にも幅広く取り組んで参りました。

また、その間において、行政関係者、自然科学、社会科学及び人文科学の幅広い学識経験者や関係諸団体、地域住民の方々等国内はもとより世界各国の、非常に多くの皆様のご指導ご支援ご協力を仰ぎ、あわせて交流を深めることができました。

また、センター内部としても、組織体制の充実、人材の育成にも努めて参りました。現在50名を越える常勤体制となり、内外の関係資料も随分と増え、事務所が非常に手狭になってきました。たまたま、ビルの持主がお亡くなり、相続税の関係で、ビルが物納されることになり、事務所を移転しなければならなくなりました。貸室の単価が随分下がり、総価が変わらずに、今までより広い面積の室を借りることができ、昨年8月末に新しい事務所で業務を開始しました。懸案であった資料室の拡充ができ、事務室も少し広くなり、職場環境を良くすることができました。

これを機会に、役職員一同一段と気を引き締めて、安全で豊かな潤いのある水辺空間の保全整備についての技術開発、調査研究及び広報にと努力していきますので、一層のご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。